

国際交流基金:7月、8月にリオ・デ・ジャネイロで開催！
「リオから東京へ From Rio To Tokyo」
美術・映画・音楽で伝える日本、つなぐ日伯交流



© Minoru Hirata Courtesy of Taka Ishii Gallery Photography / Film



狂った果実 ©1956 Nikkatsu



左: 東京スカパラダイスオーケストラ 右: Emerica

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は、今年8月のリオ・デ・ジャネイロ オリンピック・パラリンピック開催にあわせ、リオから東京へとバトンをつなぐ取り組みとして、オリンピック開催前の7月から8月にかけて、リオ・デ・ジャネイロで日本・ブラジル共同による、美術、映像、舞台芸術分野の文化交流事業を総合的に展開し、オリンピック・パラリンピックを盛り上げます。

■「リオから東京へ From Rio To Tokyo」

別紙①: <美術展>「コンテンポラリーの出現・日本の前衛美術 1950-1970」

【会期】 2016年7月14日(木)～8月28日(日)

【会場】 パソ・インペリアル美術館

別紙②: <映画上映> 中平康監督特集

【会期】 2016年7月27日(水)～8月1日(月)

【会場】 Centro Cultural Banco do Brasil Rio de Janeiro

別紙③: <コンサート> 日本ブラジル共同制作ポップスコンサート「上を向いて歩こう^{オーリャ プロ セウ}～Olha pro céu～」

【日程】 2016年7月29日(金)、30日(土)20時30分開演

【会場】 VIVO RIO

本事業は、美術、映画、音楽の各分野で、前回の東京オリンピック時代前後に活躍したアーティストの作品に焦点を当てて展開し、その躍動する時代の日本の姿を伝えるとともに、未来へのメッセージを発信します。

美術分野では、前衛芸術グループのハイレッド・センターによる『首都圏清掃整理促進運動』(1964年)を含む戦後日本の前衛美術をブラジルで初めて紹介。実際に現地の方々や旅行客を巻き込み、「首都圏清掃整理促進運動」を現代のリオで再現する「リオ清掃計画」も予定しています。映画では、50年代から70年代にかけて活躍した中平康監督の作品をブラジルで初めて特集上映します。さらに音楽では、永六輔作詞・中村八大作曲により歌い継がれている『上を向いて歩こう』をテーマにし、現代の日本とブラジルのアーティストがブラジルの貧民街(ファヴェーラ)の子供たちとともに、今を生きる人々へ普遍的なメッセージをリオ・デ・ジャネイロから世界へ届けます。

今回の事業を通じて、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運の高揚の一助となることを目指します。

●本件に関するお問い合わせ: 国際交流基金 コミュニケーションセンター (担当:川久保、森)

Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

■美術展「コンテンポラリーの出現・日本の前衛美術 1950-1970」

【会期】 2016年7月14日(木)～8月28日(日)
 【会場】 パソ・インペリアル美術館 (ブラジル/リオ・デ・ジャネイロ)
 【キュレーター】ペドロ・エルバー(コーネル大学准教授)
 主催: 国際交流基金、パソ・インペリアル美術館、企画協力: 鈴木勝雄(東京国立近代美術館主任研究員)
 特別助成: 公益財団法人 石橋財団、協力: Lufthansa Cargo AG

ブラジルで初！日本の戦後美術史に焦点を当てた美術展
 元永定正、中村宏、赤瀬川原平、中西夏之、磯崎新、菅木志雄、新国誠一、松澤宥など



元永定正 「作品」, 1961



高松次郎 「瓶の紐」, 1963

撮影: 山本利 ©The Estate of Jiro Takamatsu. Courtesy of Yumiko Ohba Associates, Tokyo, Fergus McCaffrey, New York and Stephen Friedman Gallery, London



羽永光利
 「松澤宥『第10回現代日本美術展』」, 1971

参加= 荒川修作 島倉雄三 河合龍夫 工藤雄三 藤松太郎
 田中義太郎 フレイ 前山忠 松澤宥 水上旬 吉村盛徳ほか

2016年7月から8月にかけて、リオ・デ・ジャネイロにて「コンテンポラリーの出現・日本の前衛美術1950-1970」を開催致します。

本展は、50年代から70年代に至る日本の戦後美術史に焦点を当てたブラジル初の美術展であり、具体や実験工房などの世界のアート界で注目されている抽象表現、思想的な潮流に触発されて社会に新しいベクトルをもたらした建築やアート、人間の身体とは何かを模索したパフォーマンス、言葉とものとの関係性を追及した具体詩やもの派等にいたるまで、実験精神にあふれた約70点の作品を紹介します。社会的にも経済的にも激動の時代であるこの時代には、1964年の東京オリンピックなどの大きな社会現象に触発され、アーティストや建築家が新たな作品を生み出しました。社会や都市の劇的な変化を迎えているリオ・デ・ジャネイロ市内にて、日本が活力にあふれた時代を振り返り、同時に、1964年東京、2016年リオ・デ・ジャネイロ、2020年東京へと、共に未来を志向し、つなげていくものです。

「抽象の政治学」「アートと社会」「都市空間への介入」「もの、コンセプト、アート」の4つのセクションに分けられ、東京オリンピックのポスターを含む絵画、立体作品、映像、デザイン、出版物からパフォーマンスまで、様々なメディアの作品を展示します。

今回の美術展のために、アーティスト・グループ、ハイレッド・センターが1964年、東京で行ったパフォーマンスを2016年のリオに移し変えて、新しいコンセプトのもとでリオの若いアーティストによるパフォーマンスを行います。また、1962年に建築家・磯崎新氏が発表した「孵化過程」を、このたびの美術展で新たにリオ・ヴァージョンを制作し、展示する予定です。このほか、具体代表作家である元永定正氏の「作品(水)」をパソ・インペリアル空間で再現したインスタレーションや、もの派を代表する作家菅木志雄氏による新作「周臨向」など、この場でしか見ることができない貴重な作品が数々含まれています。

●本件に関するお問い合わせ: 国際交流基金 文化事業部 事業第1チーム (担当: 西藤、岡部、鈴木(慶))
 Tel: 03-5369-6061 / Fax: 03-5369-6038 / E-mail: arts1@jpf.go.jp
 ●取材・広報用画像のお問い合わせ: 担当 大西晶子 Tel: 090-9621-5235 / E-mail: aquicooo@gmail.com

■美術展 「コンテンポラリーの出現・日本の前衛美術 1950-1970」

<展示内容>

Section 1: 抽象の政治学

東京オリンピック前夜となる1950～60年代に焦点を当て、熱い抽象を生み出した「具体」グループや冷たい抽象と称される「実験工房」の活躍から、日本の抽象表現主義を読み取ります。「具体」と「実験工房」とともに、平面作品だけでなく映像作品やインスタレーションも展示し、当時の抽象的な実践を様々な表現から検証する場を構築します。

【展示作家】北代省三 / 白髪一雄 / 鷺見康夫 / 田中敦子 / 福島秀子 / 村上三郎 / 元永定正 / 山口勝弘

Section 2: アートと社会

1950年代のルポルターージュ絵画を通して当時の社会闘争を観察すると同時に、読売アンデパンダン展頃に顕在化してきたアートと社会の関係性を検証します。東京のパブリックスペースへと飛び出していった読売アンデパンダン展出品作品とともに、前衛美術と社会の間を事件的に描き出した赤瀬川原平の千円札なども展示します。

【展示作家】赤瀬川原平 / 池田龍雄 / 石井茂雄 / 桂川宏 / 高松次郎 / 中西夏之 / 中村宏

Section 3: 都市空間への介入

1960年代初期は、アーティストが新たなアート表現を求めて都市へと繰り出し様々な実験的表現も生み出す時代となります。そうした実験を試みたアーティストたちは、ストリートパフォーマンスも展開していきました。羽永光利による数多くの写真などの展示からそのパフォーマンス現場を見つめ、当時の都市空間におけるアーティストの行動を再検証していきます。

【展示作家】磯崎新 / 亀倉雄策 / 末永蒼生 / 羽永光利 / 平田実

Section 4: もの、コンセプト、アート

1970年代の物質性に焦点を当てた作品を紹介します。「もの派」といった物質と空間の関係性を考察した作家、文字を抽象的に利用し新たな表現へと持ち込んだ「具体詩」の作家や松澤宥などを取り上げることで、コンセプチュアルアートと物質性の対立的な関係性を解明します。もの派を代表するアーティスト菅木志雄による新作(インスタレーション)も本セクションで展示されます。

【展示作家】小野洋子 / 北園克衛 / 菅木志雄 / 高松次郎 / 新国誠一 / 羽永光利 / 松澤宥

パソ・インペリアル美術館

18世紀ポルトガル植民地期に政府庁舎として創立。その後19世紀前半に王立宮殿へと移行し、1984年以降には、リオ市の主要文化センターとして、美術や音楽、映画などを題材とする展覧会を実施。同市の中心街に位置し、歴史的建造物として市民に親しまれるとともに、観光スポットとしても人気。

キュレーター: ペドロ・エルバー(コーネル大学准教授)

コーネル大学にてブラジル思想史、文学、美術史等を教えるほか、日本及びブラジルの戦後の美術史や思想史を比較研究できる希少な若手研究者として活躍中。国際交流基金の日本研究フェローとして日本に留学、研究対象には日本美術や日本の思想史も含まれ、日伯における戦後美術史を比較した「Breaching the Frame」等の書籍を出版。

●本件に関するお問い合わせ: 国際交流基金 文化事業部 事業第1チーム (担当: 西藤、岡部、鈴木(慶))

Tel: 03-5369-6061 / Fax: 03-5369-6038 / E-mail: arts1@jpf.go.jp

●取材・広報用画像のお問い合わせ: 担当 大西晶子 Tel: 090-9621-5235 / E-mail: aquico00@gmail.com

<別紙> - 2

■日本映画上映 「中平康監督特集」

-Ko Nakahira Special Features

【会期】 2016年7月27日(水)～8月1日(月)
 【会場】 Centro Cultural Banco do Brasil Rio de Janeiro (ブラジル/リオ・デ・ジャネイロ)
 【上映作品】中平康監督 8作品 ※各作品を2回ずつ程度上映
 主催:国際交流基金、協力:国立ブラジル銀行文化センター

エネルギー溢れる日本を捉えた中平康監督作品
 ブラジルで初！特集上映

第1回東京五輪(1964年)開催当時に活躍していた巨匠たちの中でも、多様な映画手法を積極的に用い、スピーディーなテンポで前衛的かつ娯楽的作品を数多く生み出した中平康監督の作品を、ブラジルで初めて特集上映します。

青春映画から、アクション、コメディ、サスペンス、文芸作品まで、多彩な中平ワールドが詰まった、オリンピックイヤーに公開された3作品を含む代表作計8作品を、ブラジルの方々に存分にご堪能頂く貴重な機会とします。



狂った果実 ©1956 Nikkatsu

リオ・デ・ジャネイロのほか、サンパウロにも巡回し、同じライナーアップで上映を予定しています。

会場: Centro Cultural Banco do Brasil サンパウロ支部
 会期: 2016年8月3日(水)～8月8日(月)



左: 夏の嵐 ©1956 Nikkatsu Corporation 右: 獵人日記 ©1964 Nikkatsu Corporation

<上映作品一覧>

	タイトル	英題		公開年	長さ(分)	出演
1	狂った果実	Juvenile Jungle	B/W	1956	86	北原三枝、石原裕次郎
2	夏の嵐	Summer Storm	B/W	1956	86	北原三枝、津川雅彦
3	誘惑	Temptation	B/W	1957	91	左幸子、芦川いづみ
4	その壁を砕け	Break Down That Wall	B/W	1959	100	長門裕之、芦川いづみ
5	獵人日記	The Hunter's Diary	B/W	1964	123	仲谷昇、戸川昌子
6	砂の上の植物群	Flora on the Sand	B/W	1964	94	仲谷昇、稲野和子
7	月曜日のユカ	Only on Mondays	B/W	1964	93	加賀まりこ、中尾彬
8	黒い賭博師	The Black Gambler	Color	1965	86	小林旭、富士真奈美

●本件に関するお問い合わせ: 国際交流基金 映像事業部 (担当: 松井)

Tel: 03-5369-6064 / Fax: 03-5369-6038 / E-mail: media_and_communications @jpf.go.jp

■日本ブラジル共同制作ポップスコンサート
オーリャ プロ セウ
 「上を向いて歩こう～Olha pro céu～」

【日程】 2016年7月29日(金)、30日(土)20時30分開演

【会場】 VIVO RIO(ブラジル/リオ・デ・ジャネイロ)

【出演者】(敬称略)

<日本> マルシア、東京スカパラダイスオーケストラ

<ブラジル> Vanessa Da Mata(ヴァネッサ・ダ・マタ)、Emicida(エミシーダ)

<特別ゲスト> NPO Favela Brass (ファヴェーラ・ブラス)

※リオ・デ・ジャネイロの貧民街の子供たちに無償で英語・音楽教育を行っている現地団体

世界を魅了し歌い継がれている日本の名曲『上を向いて歩こう』
 日本・ブラジルのアーティストがコラボレーション！
 ～リオから東京、世界へのメッセージ～

2016年リオ・デ・ジャネイロ オリンピック・パラリンピックの開幕に先立ち、日本ブラジル共同制作ポップスコンサート「上を向いて歩こう～オーリャ プロ セウOlha pro céu～」をリオ・デ・ジャネイロにて実施します。本コンサートのテーマ曲『上を向いて歩こう』は、1961年に坂本九の歌唱で発表され、1963年に全米1位を獲得、ブラジルも含め全世界に拡がり、長く愛される名曲となりました。コンサートでは、時代も国境も越えて今なお歌い継がれているこの曲に込められた普遍的な悲しみと、そこから見出す希望をメインテーマに、各アーティストのパフォーマンスが披露されます。

日本からはマルシア、東京スカパラダイスオーケストラの2組が、ブラジルからは、実力派として高い人気を誇る歌姫 Vanessa Da Mata とラップ界を代表する Emicida が加わり、日本とブラジルを跨ぐ音楽の架け橋を実現していきます。また、ブラジルの貧民街(ファヴェーラ)の子供たちも演奏に参加し、音楽を通じてリオ・デ・ジャネイロから東京、世界にメッセージを届けます。



<上>Emicida <左>東京スカパラダイスオーケストラ <中>Vanessa Da Mata <右>マルシア

●本件に関するお問い合わせ: 国際交流基金 文化事業部事業第1チーム (担当: 申(しん))

Tel: 03-5369-6061 / E-mail: Hee-jeong.Shin@jpf.go.jp